

西南戦争とは

旧薩摩藩士を中心とする士族が、明治新政府の専制的な政治に反対して起こした国内最後の内戦で、明治維新の総仕上げであった。

幕末維新期、武士の棟梁江戸幕府を倒して新しい時代を作ったのは、同じ武士たちだった。しかし、明治時代になると元武士たちは冷遇される。その理由は大きく経済的なものと武力の担い手の問題だった。明治新政府は急速に近代化を進め、世の中の仕組みを大きく変えた。徴兵令、廃刀令、秩禄処分などは新政府には必要だったが、士族たちは不満を増大させ、ついに破裂する。

1877(明治10)年2月19日に西郷隆盛率いる薩摩軍に征討令が発せられて戦争が始まり、同年9月24日鹿児島城山での西郷隆盛の自刃で幕を下ろした。約7か月に及ぶ戦いは、熊本、大分、宮崎、鹿児島の九州4県にまたがり、薩摩軍3万人、政府軍6万人が動員され、約14,000人の若者が命を落とした。小銃や大砲を中心とする本格的な近代戦で、物量、情報伝達、物資輸送の点で勝る政府軍が勝利した。

西南戦争は数百年続いた武士の時代の終わりを告げ、近代国家確立の礎となった戦いとして、日本の歴史の大きな転換点に位置づけられる重要な戦争である。



館内案内



① アプローチ展示

幕末から西南戦争に至る時代背景を時代毎に追った巨大なコラージュ壁画が左から迫ります。右側には壁画に関連する実物資料や幕末維新期資料、熊本にゆかりのある人物の古文書などを展示します。その先には熊本城籠城中の最大の戦いを描いた「段山激戦図」が控えています。

② 体感展示

田原坂の戦いの戦場をイメージしたジオラマは細部にこだわって造られており、まるで陣地の中にいるような感覚を味わえます。映像には砲弾の着弾音、振動、小銃弾の飛来立体音や地元の方々などの協力で撮影した田原坂の戦いの再現などがあり、戦場を体感できる展示です。

③ 検証展示

戦場での生活、衣服、食糧などの資料や、肉筆の手紙などで、実際に戦場で戦った人々を浮き彫りにします。長大なガラスケースでは通しテーマを近代化とし、当面は当館の最大の強みである小銃や臼砲、日本刀などの軍事関連資料や軍陣医療資料を多く展示します。時には企画展示室に早変わりします。向かいには従軍関係者の写真や戦死者名簿があり、他にも写真を探しています。お持ちの方はご一報をお願いします。

④ 継承展示

西南戦争を未来に継承する展示です。田原坂は日本赤十字社の前身博愛社が生まれた場所であり、日赤発祥の地です。このことを多くの方々に知っていただくのと同時に命の尊さ、愛と平和の大切さを発信していきます。

⑤ 企画展示・体験学習ホール

どなたでも気軽に利用できる無料スペースで、企画展示や体験学習を行います。軽飲食や休憩、学校遠足の集場所などとしても使えます。



左から
13ドイム臼砲弾、
四斤砲弾榴弾、
四斤砲弾榴弾